

科名 血液内科 血153

対象疾患名 小児および若年成人におけるT細胞性急性リンパ性白血病(成人)

プロトコール名 JALSG T-ALL211-U寛解導入(IA)

Rp 形態	ルート	薬剤名	単位		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
1	点滴 側管	グラニセトロンパッグ	1mg	30分かけて	↓				↓			↓			↓			↓
2	点滴 側管	オンコピン	1.5mg/m ²	30分かけて	↓							↓						
		生理食塩液	100mL	壊死性抗がん剤 フィルター使用不可														
3	点滴 側管	ダウノマイシン	30mg/m ²	1時間かけて	↓							↓						
		生理食塩液	100mL	壊死性抗がん剤														
4	点滴 側管	ロイナーゼ	5000U/m ²	1時間かけて					↓			↓			↓			↓
		5%ブドウ糖	500mL	初回投与時は ブリックテストを行う														
5	点滴 側管	デキササート注	2.75mg/m ² /回	30分かけて	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓
		生理食塩液	100mL	1日3回 内服でも可														
随注									↓						(↓)			

Rp 形態	ルート	薬剤名	単位		15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1	点滴 側管	グラニセトロンパッグ	1mg	30分かけて	↓		↓					↓		↓			↓			
2	点滴 側管	オンコピン	1.5mg/m ²	30分かけて	↓							↓								
		生理食塩液	100mL	壊死性抗がん剤 フィルター使用不可																
3	点滴 側管	ダウノマイシン	30mg/m ²	1時間かけて	↓							↓								
		生理食塩液	100mL	壊死性抗がん剤																
4	点滴 側管	ロイナーゼ	5000U/m ²	1時間かけて			↓			↓			↓				↓			
		5%ブドウ糖	500mL	初回投与時は ブリックテストを行う																
5	点滴 側管	デキササート注	2.75mg/m ² /回	30分かけて	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓
		生理食塩液	100mL	1日3回 内服でも可																
6	点滴 側管	デキササート注	1.38mg/m ² /回	30分かけて								↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓
		生理食塩液	100mL	1日3回 内服でも可																
7	点滴 側管	デキササート注	0.69mg/m ² /回	30分かけて											↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓
		生理食塩液	100mL	1日3回 内服でも可																
8	点滴 側管	デキササート注	0.34mg/m ² /回	30分かけて															↓↓↓	↓↓↓
		生理食塩液	100mL	1日3回 内服でも可															↓↓↓	↓↓↓
随注										(↓)										↓

～MEMO～

・先行治療(血内152)を行い、day8以降であること

<オンコピン>

イトリゾールの併用禁忌

最大投与量2mg

フィルター使用不可

・day5,26に随注を行う。CNS2、またはCNS3の場合は、Day11,20を追加する。

《随注投与量》

3歳以上に対し、「メソトレキセート12mg、キロサイド 30mg、プレドニゾン 10mg」とし、1本の注射器にまとめて随注する。

メソトレキセートは、注射用水で溶解し、2.5mg/mLにする。プレドニゾンは注射用水で溶解し、10mg/mLにする。キロサイドは必要量をとる。

・デキササート注：内服でも可。その際の1日投与量は下記とし、投与方法変更時も1日3回に分割投与する。なお、注射剤での1日投与量は、内服量に変換係数 0.825を乗じて換算する。

10歳未満：10mg/m²/日 1日3回内服、 day1-21

10歳以上：10mg/m²/日 1日3回内服、 day1-7、day15-21(day8-14は休業)

→day22-37：3日毎に減量し9日間で漸減中止とする(5mg/m²/day →2.5mg/m²/day →1.25mg/m²/day)

・day8においてオンコピンとロイナーゼを同日に投与する場合、毒性軽減の為にオンコピンを先に投与すること。

・ロイナーゼ：初回投与時はブリックテストを行う。

《ブリックテスト用調製方法》

1. ロイナーゼ5000単位を5%ブドウ糖液2mLで溶解後、全量を5mLとする。

2. 0.1mLを分取し、5%ブドウ糖液で全量1mLとした後、このうちの0.1mLを皮内注射する。(ロイナーゼ投与量 10単位)

3. 皮内注射後15-30分間異常がないことを確認する。